

State of the Art

臨床

偶発型甲状腺未分化癌

Incidental anaplastic thyroid carcinoma

吉田 明

神奈川県予防医学協会婦人検診部部长 / 横浜市立大学客員教授

Summary

術後の病理検査で偶発的に発見された甲状腺未分化癌 (ATC) の実態はいまだ十分に理解されていない。そこで甲状腺未分化癌研究コンソーシアムに登録された偶発型ATCの特徴を調べ、どのように取り扱うべきかを検討した。偶発型ATCは、腫瘤径が2cm程度のもが多く、ほとんどが乳頭癌と併存していた。このことより偶発型ATCは乳頭癌の未分化転化の初期に相当するものが多いと考えられた。また、偶発型ATCの約半数は癌死せず長期生存が可能であった。偶発型ATCの予後因子として有意差の存在したものは腫瘤径のみであり、術後の放射線外照射や化学療法の有用性を統計学的に示すことはできなかった。しかし、治癒切除例で手術のみの場合約3分の2が癌死していたが、術後adjuvantとして放射線外照射および化学療法の両者を行ったものでは癌死したものはいなかった。偶発型ATCは治癒する可能性がある癌であり、術後には可能な限りadjuvantとして放射線外照射や化学療法を行うべきと考えられた。

Keywords

偶発型未分化癌

未分化転化

長期生存

術後追加治療

はじめに

甲状腺癌の多くを占める分化癌は発育が遅く予後良好である。しかし、同じ濾胞上皮細胞より発生する甲状

腺未分化癌 (anaplastic thyroid carcinoma ; ATC) は非常に悪性度が高く予後不良である。このATCは頻度的には全甲状腺癌の1~2%と稀であり、60歳以降の高齢者に多いのが特徴である。近年高齢化社会を

迎え、高齢者の甲状腺癌を手術することも多くなっているが、高齢者の手術例では術後の病理検査で分化癌とともに偶発的にATCが発見されることも経験される。このように偶発的に発見されたATC (偶発型ATC) の